

**様式1【申し合わせ事項】 【委員会、全協：共通様式】**

令和7年10月16日

教育民生常任委員会

委員長 片松雅弘 様

教育民生常任委員会

委員 川瀬孝代

**研修報告書**

研修期間	令和7年 10月7日（火）～8日（水）
研修（視察）先	岡山県美咲町役場 兵庫県加古川市役所
目的（テーマ等）	地域づくりについて ごみ減量化に向けた取り組みについて
資料添付の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページに記入すること。

## 様式1【申し合わせ事項】：【委員会、全協：共通様式】

[氏名：川瀬孝代]

]

### 概要・内容

美咲町「地域づくりについて」

美咲町では、賢く収縮するまちづくり『みんなでささえあってきょうりょくするまち』を目指している計画、現状を地域未来課より説明を受けました。

まちづくりの事業概要では、振興計画、公共施設等において個別管理計画、適正配置計画、多世代交流拠点整備、地域に開かれた特色ある学校づくりとしての義務教育学校の開校、小規模多機能自治の推進、全世代型地域包括ケアシステム（重層的支援体制）の推進に取り組んでいる。

町を取り巻く背景、現状、取り組みでは、少子高齢化、人口減少、経済・財政規模の縮小、担い手不足、若者・女性の流出、公助の限界、地域課題の重複、深刻化している高齢化率49.4%、出生数（2025年推計）36人、「補助金制度」として、移住、定住促進（空き家活用）総合窓口設置（NPO法人対策専門）住宅新築、分譲地整備、住宅団地購入など、これまでの活動や体制から脱却し見直し改善し必要な活動への展開をしている。

小規模多機能自治では、賢く収縮しながら地域共生社会の実現を目指しています。

これまでの現状では、自治会の役割では伝統的な慣習行事、子どもや高齢者の支え合い活動には限界がある、会合出席は世帯主が多く高齢男性の発想で決まる、内容は伝わりにくく、代表者が輪番体制や短期間で世代交代、代表者への責任が集中するなど行き詰まりがある。

「新しい組織づくり」が必要で、小学校区で一定人口を確保し子どもや高齢者男女の枠を超えた意見を聴いていく、慣習行事では地域課題を解決する地域活動としていく、部会をつくり責任集中を防ぎ担い手の育成に取り組んでいる。

意識改革をしていく、81自治会を13の地域運営組織とし自分たちで考え決定し実践し、地区住民主体で公共福祉を担い・行政と協働し住みやすい地域を形成している。アンケート調査実施やまちづくり協議会（地域運営会議）、部会を設置し共同のまちづくりを実行し、公共施設の集約と解体にスピード観をもって取り組んでいる。

廃校舎を活用した図書館や公民館などが住民への利便性があるとして利用促進している。

### 所感

高齢化が高い中で、高齢者をはじめ住民がそれぞれの立場でまちづくりに参画し、充実した暮らしを続けていくように地域のコミュニティを大切にした取り組みに感銘しました。住民主体で考えていく、自立、自主性が生まれていることで、活性化したまちづくりになることや住民組織として福祉や防災にも取り組みをしている、補助金の活用も実際の課題に使われています。自治体消滅という状況に存続をかけた喫緊の課題として必死の取り組みを感じました。また、町長の意気込みと課長の丁寧な説明には圧巻でした。本町においても自治会への課題はたくさんあり、あり方を考えないといけないと思います。この度の研修を通して本町として、さらに委員会において調

査研究し、担当課と意見交換が必要と考えます。地域づくりは、住民の生活に密着することです。行政への提案をしていきたいと思います。

## 概要・内容

加古川市「ごみ減量に向けた取り組みについて」

環境部環境政策課・環境施設課、環境政策課より説明を受けました。

加古川市は、高砂市、稻美町、播磨町で令和4年度より稼働する広域ごみ処理施設の処理量に合わせ、燃やすごみについて、平成25年度の89,338トンから、71,553トンまで20%減量することが求められていました。平成30年末には22,3%の目標を達成したが、令和6年度末では、33,9%となり減量化が進んでいる。効果の大きいものでは、剪定枝の資源化、粗大ごみの戸別有料収集、事業系ごみ搬入検査の強化が考えられる。

### 1 冷蔵庫の中身チェック

ごみ減量についてアイデアを募集したもので市ホームページや啓発リーフレットなどで案内し、ごみ質組成調査結果を作成している。食品ロス削減の意識が高い市民が取り組んでいます。今後は啓発が必要である。

### 2 市民への啓発活動、教育プログラム

かんきょう出前講座を実施、環境についての学習の機会として「専門講師派遣タイプ」と「市職員派遣タイプ」のメニューをつくり受講を実施している。

3 粗大ごみ戸別収集事業は、自宅前で収集運搬と処理施設での処分、リサイクルとしている。利用する場合はコンビニで処理券を購入、受付で予約し手数料を徴収している。排出困難な高齢者世帯などの負担軽減となり利便性が高まっている。

### 4 学校での取り組み「小学4年生夏休みごみ減量チャレンジ」

環境学習を始めることで家庭のごみ出しを手伝いながらごみ減量や資源の分別を考えることを目的としている。市内の学校に募集して実施している。

5 リユース意識の向上とごみ処理量の更なる削減につなげるため「(株)ジモティー」と連携協定し、必要とされる方に受け渡すリユースを促進している。

### 6 具体的なごみ減量

小型家電、配食用油の拠点回収、雑紙保管袋、段ボールコンポスト機材配布、生ごみ処理機購入補助、剪定枝資源化・粉碎機貸出、粗大ごみ戸別有料収集、指定ゴミ袋、てまえどり運動、おいしい食べきり運動協力店制度など取り組んでいる。

## 所感

加古川市は行政として環境部での事業が細かいく実施をされています。また委託として企業やNPO法人を活用して、推進されていました。丁寧に説明を受けました。内容が多くありましたが市民への意識啓発や協力店を巻き込んだ取り組みは重要です。本町での取り組みにおいて同じような取り組みもありましたが、研修を通して担当課と意見交換をし、本町として実施できることがあれば求めていきたいと思います。